

# 今より暖かかったころの暮らし

環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



とかがわおんせん いせき だんきゅう おとふけちやうと かがわおんせんじやうか  
十勝川温泉1遺跡のある段丘(音更町十勝川温泉浄化センター)。道を手前  
に下って行くと十勝川。右下は見つかった土器(音更町郷土資料室: 1)。

およそ6,000年前、暖かい時期がやって来ました。平均  
気温が今より2 くらい高く、海水面も今より3 ~ 4 m  
高くなっていました。海が陸の方に入りこみ、河口も今  
より少し上流にありました。( p84)

このころ、十勝川温泉の浄化センターあたり(音更町)に、暮らしている人がいました。今は、十勝川より3 m くらい高い場所です(十勝川温泉1遺跡)。

家は、床をほり下げた「竪穴式」ですが、床の形は角が丸い長方形です(大きいもので3.7m x 2.7m)。床は平らではなく、段差がつけてありました。

この人たちは、底が丸いポウルのような土器や、底がとがった土器を使っていました。

## 墓と「捨てる場所」

十勝川温泉1遺跡の家の近くには、墓が作られていました。

同じころ、芽室町の美生川と十勝川にはさまれた、段丘の上にも墓が作られていました(小林遺跡: 右ページ)。

墓には副葬品として石器などが入れられ、「C」の形をした耳かざり(塊状耳かざり)が入れられることもありました。

この芽室の墓の周りは、土器(丸い底)・石器・土偶などを「捨てる場所」だったようです。ただし「捨てる場所」は、今のゴミ捨て場とは全くちがいます。

大切なものや使い終わったものなどを神に送り、あるいはものを「神」や「人」として見て、感謝や祈りをささげる、そんな場所だったようです。だから、人の墓と同じ場所にあったのでしょうか。( カムイ p134)



こばやしせいせき めむろ  
(上)小林遺跡(芽室町)。墓の見つかった場所。



こばやしせいせき  
(右)小林遺跡で見つかった墓。

(写真: 芽室町ふるさと歴史館ねんりん蔵)

## 落とし穴でシカをとる

それから数百年たったころ、今「JICA帯広」や「森の交流館・十勝」がある丘の上にも、人が暮らしていました。帯広川やその支流が流れる湿地を見下ろす場所です(宮本遺跡・帯広市)。

そこで暮らす人は、落とし穴をつくってシカをとり、あるいは木の実を集めて加工していました。

落とし穴は、2 ~ 4m x 1 m、深さ1 ~ 1.5mで、丘から流れ落ちる小川(19条川)に水を飲みにもやって来たシカを追いこむような形でつくられていました。

そのほか、北明1遺跡(芽室町)や共栄3遺跡(清水町)、あるいは、八千代遺跡や稲田1遺跡(帯広市)でも落とし穴がつくられています。



みやもとせいせき おびひろし ジャイカおびひろ  
(上)宮本遺跡(帯広市)。今はJICA帯広の敷地。



みやもとせいせき  
宮本遺跡で見つかった落とし穴。

(写真: 2枚とも、帯広百年記念館埋蔵文化財センター蔵: 3)

1 音更町郷土資料室(おとふけちやうきやうどしりやうしつ): 音更町希望が丘1番地(農村環境改善センター内) 電話 0155-42-4099  
2 副葬品(ふくそうひん): 亡くなった人の亡きがらといっしょに、埋葬(まいそう)

されたもの。  
3 帯広百年記念館埋蔵文化財センター(おびひろひやくねんきねんかんまいぞうぶんがざいセンター): 帯広市西23条南4丁目26 電話 0155-41-8731 日・月曜日休館

## 人の生死を見つめる神聖な場所 ... 小林遺跡

日高山脈から流れ下る美生川は、芽室町の中央を通って南西から北に向かい、十勝川に合流します。この美生川と十勝川にはさまれた段丘の上に、「小林遺跡（芽室町）」があります。

小林遺跡からは、墓のあと8個と、墓以外の穴のあと94個が見つかりました。また、合わせて10万点をこえる、土器（丸い底）・石器・土偶などが見つかりました。

このようすから、この場所は使い終わった道具を神に送る「捨てる場所（廃棄の場）」だと考えられています（94ページ参照）。

今では住宅地と畑になっていますが、およそ6,000年前の人にとっては、何かしら「神聖な」ところと感じられたのでしょうか。

土偶は3つあり、もとの形がわかるものには、オッパイがついていました。子どもを産み育てる女の人の力を大切に思っていたようです。

見つかった土器などは、芽室町ふるさと歴史館「ねんりん」に保管され、その一部が展示されています。



小林遺跡の位置。芽室町東9条10丁目・北1線。



小林遺跡のある段丘。美生川の堤防から。



(上)小林遺跡(芽室町)の「捨てる場所」。祈りの場所でもある。(写真:芽室町ふるさと歴史館ねんりん蔵)

### ボウルのような土器 ... 観察のポイント



小林遺跡の土器。底に丸みがあるものが多い。

### 遺跡のある場所と川の流れ

勝手に畑や人の家の庭に入っただけではいけません。歩きながら、小林遺跡のある場所を見てみましょう。美生川と十勝川がどちらにあるか、わかりますか？

また、美生川の堤防の上を歩いて、下から見上げてみましょう。あなたは、「神聖さ」を感じますか？

### ボウルのような丸底土器

小林遺跡の土器はパケツのような大型の深いものと、ボウルのような形のものがあり、底は丸みをもっています。表面には、太い縄目のもようがつけられています。



小林遺跡の玦状耳かざり。

(写真:3枚とも、芽室町ふるさと歴史館ねんりん蔵)



小林遺跡の土偶。タテ約5cm。

### 耳かざりや土偶

女の人の土偶や「C」形の耳かざり（玦状耳かざり）も見てください。土偶は、リアルではありませんが、デフォルメされた中に、女の人のやわらかさとたくましさ表現されています。

4 ふるさと歴史館ねんりん（ふるさとれきしかんねんりん）：芽室町美生2線38-15（旧美生小学校）電話 0155-61-5454 火曜日休館

5 デフォルメ（déformer：フランス語）：美術などでものを表現する時、そのままの形ではなく変形させること。